



さか い だ
坂井田

しげる
茂

いっ しん かい
一 津 会

教員の長時間勤務に対する抜本的な方策は

問 教員の勤務実態調査の結果から、約3割の教員が授業準備や部活動等で毎日2～3時間、時間外勤務に従事し、約9割の教員が仕事を持ち帰るとともに、土・日にも自宅で採点やノート点検、部活動等に従事していることが判明し、かつ、常態化していることも明らかになった。根本となる原因と解消に向けての方策として、市全体で統一した具体的な指示・伝達の内容は。

答 学校に求められる役割が拡大し、学校や教員だけでは解決できない課題が増大している一方で、子どもたちには、将来の予測が困難な時代を生き抜いていくのに必要な力が求められている。そのための授業改善や学校指導體制の強化が求められており、それらの諸課題に対して対応してきた結果、教員の長時間勤務が常態化してきた。

本年度、県教育委員会の通知を受け、津市では、定時退校日、部活動休養日の設定、会議時間の短縮の3点について、学校や地域の実情に応じて、取り組みを進めているところである。

特に、部活動休養日については、指針を定め、週1回の休養日を設定するとともに、土・日の休養日についても、1カ月に2日以上設定するようにした。

●その他の質疑・質問●

- 学校教育に直接反映できる「教育振興基金」設置の考えは
- 学校管理下における児童生徒の安全確保と安心して学べる教育環境に関して
 - 「微粒子状物質（PM2.5）」の状況把握と小中学校および幼稚園への情報提供の流れは確立されているか
- 職員の海外長期派遣により津市への期待される効果は など



▲教員が奮闘する職員室の灯（定期試験2日前の午後8時）



ふく た けい いち
福 田 慶 一

しみん
市民クラブ

行政の守備範囲の見直しを

問 これまで、国・地方税の自然増により財政も右肩上がり、順調に推移してきた。その結果事務事業も増大し、肥大化してしまった感もある。民間企業では実施されている事務事業の効率化・能率化は自治体を経営体とした場合、当然行われるべきことだ。新しい行政需要を限られた財源の中で有効かつ効率的に活用するための守備範囲の見直しに対しての考えは。

答 これまでの津市の10年間は、津地区合併協議会が策定した新市まちづくり計画の将来ビジョンを着実に実現することを第一の使命として取り組みを進め、ほぼやり遂げつつある状況である。今後は、人口減少に伴う市税収入の減少や合併特例事業債発行による財政支援が終了するなど、非常に厳しい財政の枠組みの中で、より効率的、効果的に事業を進めていかなければならず、行政サービスを広げていくことは難しいことであると認識している。そのため、今の役割分担をベースに、市民の皆さんとしっかりと意見交換をしながら物事を決め、将来を見据えた選択と集中のもと、市民の幸せのために行政としてやるべきことをしっかりと見極めていくことが必要であると考えている。

●その他の質疑・質問●

- 道徳教育について
 - 道徳教育の現況は
 - 教科化に対する考えは
- 職員のソーシャルメディア（SNS）利用について
- レセプト（診療報酬明細書）分析について
- 病気の子どもを一時的に預かる取り組みについて
- 大災害時の初動対応について



▲小学校における道徳授業風景